

佐久新校（仮称）基本計画（案）【概要版】 R7.6 時点



1 佐久新校の概要・現状、周辺環境

※現時点でのイメージ図であり、今後の検討で変更する可能性があります

○ 佐久新校の概要・現状

- ・旧第 6 通学区内の都市部に位置し、令和 6 年度時点で野沢北高校には全日制普通科(4 学級)と全日制理数科（1 学級）、野沢南高校には全日制普通科（4～5 学級）と定時制（1 学級）が配置されている
- ・佐久新校は令和 11 年度に両校を統合し、野沢北高校校地に新たな全日制普通科等（8 学級）を新設
- ・野沢南高校定時制は佐久新校に移管し、将来的には佐久・小諸エリア唯一の定時制高校となる見込み

○ 周辺環境

- ・佐久新校の計画地は、北方に浅間山、南方に八ヶ岳、清らかな千曲川が流れる自然豊かな地に位置する
- ・佐久地域は大学、行政機関、医療機関、宇宙観測所、民間企業など、地域と協働する学びを実現するための連携先が充実しており、地域資源を活かし、地域をフィールドとした探究活動の実現が可能な環境

○ 課題

- ・駅からの公共交通手段がなく生徒は自転車で登校しており、通学経路上の交通安全性に課題がある
- ・既存施設の活用には、断熱性能の向上、バリアフリー動線の確保、設備機器の更新が必要 など

○ 諸条件

- ・屋内運動場、武道場、クラブ練習室、部室、合宿所、プール、校舎の一部を除却し、全日制普通教室、特別教室、管理部門、地域連携部門、小体育館、部室を新築
- ・大体育館、特別教室棟（西館）、音楽室棟は存置し、特別教室、定時制諸室を配置

○ 敷地の条件

- ・建設地 長野県佐久市野沢 4 4 9－2
- ・敷地面積 約 33,639 m²（現野沢北高等学校敷地）
約 3,547 m²（テニスコート）
約 11,509 m²（第二グラウンド）
約 5,805 m²（拡幅用地）
- ・道路 東側：市道 4.0m、西側：市道 5.0m、
南側：県道 12m、北側：市道 4.0m
- ・用途地域 第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域
- ・防火地域 指定なし



佐久新校計画地周辺地図

2 基本計画の方針、学習空間デザインの検討

○ 佐久新校の学びのイメージ

(1) 佐久新校の学級規模

- 全日制：学際領域に関する学科（新たな普通科）等、8 学級（令和 11 年度開校予定）
- 定時制：普通科 1 学級

(2) 佐久新校の学びの方針

- 「夢のある未来社会を地域と共創する『知』の探究校」を目指す

○ 新しい学びに対応した空間計画の方針

(1) これからの時代：変化が激しく予想困難な時代

- ・単位制を見据えた個別最適化の授業や履修人数の増減に柔軟に対応できる教室をつくる

(2) これからの学び：主体的な学び、探究的な学び/個別最適な学び、協働的な学び

- ・生徒の主体的な学びを支援するため、メディアセンターやプロジェクトセンターなどを設ける
- ・生徒、教員、地域の接点となる空間を設け、地域と学校が連携した「佐久らしい」探究学習を実現

(3) 学習空間の捉え直し：生徒・教職員・地域にとって必要な要素を包含した施設

- 学習：「主体的な学び」「探究的な学び」を推進するにあたり、多様な学習スタイル、個別最適化、柔軟な授業等に対応できる空間をつくる

- 生活：機能性を高め、生徒の交流を促し、ゆとりある快適な空間を創造。一人ひとりの特性に配慮し、誰にとってもやさしい空間を創造。定時制生徒に対しては、きめ細やかな配慮を行う

- 執務：教科の枠を超えた質の高い授業の展開、災害の発生時等の早急な対応、生徒や教職員同士の交流の場等が実現できる大職員室を整備

- 共創：地域や企業の人が日常的に来校し、生徒と協働、共創するための空間を整備

(4) 空間の「質」：子どもたちが生き活きと過ごす空間

- ・必要な機能と快適性を重視しつつ、空間の「重ね使い」、空間の使用目的に応じた適切な家具を検討
- ・屋内だけの活動に留まらない、屋外ならではの活動が行えるように検討（上足の廃止も検討）

(5) 地域と共生する学校：地域にとってのかけがえのない拠点施設

- ・豊かな自然や風土の恵み、宇宙や医療、地学など、佐久地域ならではの学びを展開
- ・地域共創の拠点を目指し、地域施設との連携や役割の分担を検討

(6) 建築施設としての性能：その時々時代が求める基本的性能の確保

- ・既存校舎を含む断熱性能の向上、省エネルギー化と快適性の獲得の両立、実質的なゼロカーボンの実現

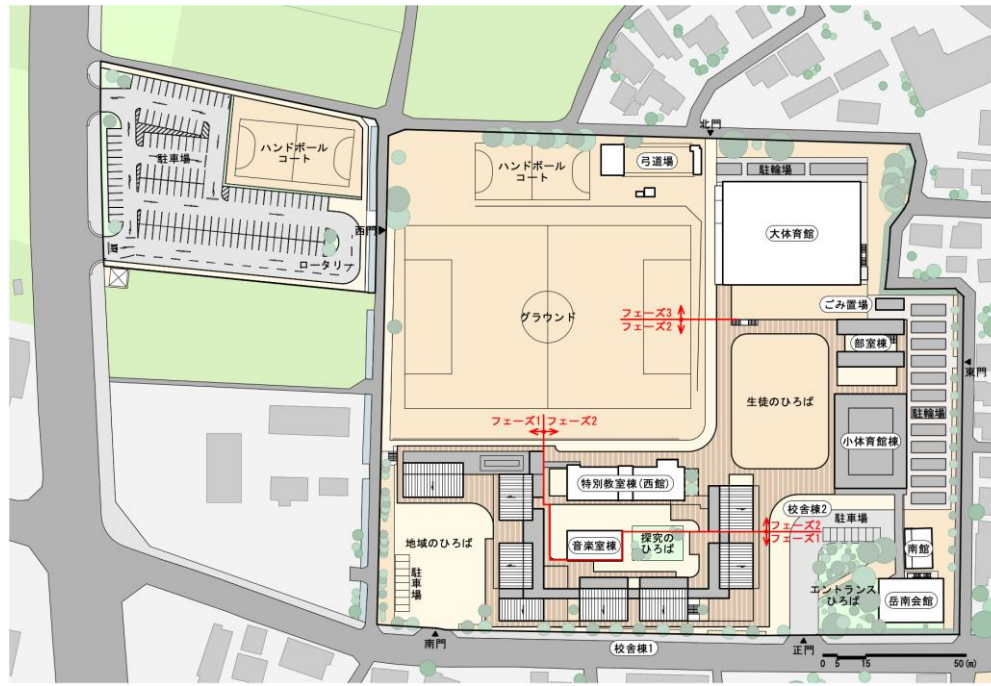


既存校舎配置図



野沢北高等学校 航空写真(プロポーザル配布資料より)

○ 配置計画の検討条件



○ 配置計画の方針

○ 平面計画の方針

○ 改修計画の方針



※現時点でのイメージ図であり、今後の検討で変更する可能性があります

平面検討図 (F 案)

4 構造計画、設備計画

○ 構造概要

- ・ 構造種別：RC 造 一部 鉄骨／木造（校舎棟） 構造形式：耐震壁付ラーメン構造（校舎棟）
鉄骨造 一部 木造（小体育館棟） プレース付ラーメン構造
鉄骨造（部室棟、渡り廊下 等） （小体育館棟、部室棟、渡り廊下等）
基礎形式：直接基礎

○ 設備概要

(1) 基本方針

- ・ 佐久の気象を丁寧に読み解き、周辺の自然環境要素を最大限活用することで快適性と省エネ性を両立
- ・ 佐久市の気候の特徴を最大限活用し、省エネで快適な室内・半屋外空間を創出。冬期の厳しい寒さと夏期の暑さの両方に対応した計画

(2) インフラ計画

- ・ 電力・通信 ：敷地南側から新規に高圧引込を行う
- ・ 給排水・ガス：公共上下水道は継続使用、井水利用の検討、都市ガスは利用取りやめを検討

(3) 電気設備計画

- ・ 照明設備 ：共用部の照明制御は省エネ性を考慮して中央制御盤での集中制御を検討
- ・ 構内情報通信網設備：有線・無線 LAN 接続の両方に対応した設備
- ・ 拡声設備 ：非常・通常業務兼用の放送架
- ・ 自動火災報知設備 ：火災報知設備の受信機を職員室に設置 など

(6) 機械設備計画

- ・ 空気設備 ：高効率なビル用マルチ空調機、建替工事のフェーズを考慮した系統分け
- ・ 換気設備 ：中間期には自然換気を行い、快適性と省エネルギーを両立
- ・ 給水設備 ：受水槽加圧給水ポンプ方式、上水は水道本管からの既存の引き込み管を利用する
- ・ 排水・通気設備 ：建物内は自然流下方式とし、汚水・雑排水合流、雨水排水に系統分け
- ・ 消火設備 ：全館屋内消火栓を用いて警戒 など

○ ZEB 化の検討

新築部分において一次エネルギーを 50%削減する「ZEB Ready」以上を目指し、将来を見据え『ZEB』を目標とする。

ランニングコスト面のメリットも考慮に入れながら、各種仕様を検討・決定

5 仮校舎の検討

順次既存施設を除却し新築棟を建設する計画であるため、各フェーズで学校機能維持のために不足する諸室を仮校舎で補う

○ 校舎

- ・ フェーズ 2 で特別教室、管理諸室の一部が不足、フェーズ 1 にて仮校舎の建設が必要
- ・ フェーズ 2 では佐久新校が開校し、単位制カリキュラムとなるため、新校の学びに必要な室数、機能の確保が必要
- ・ フェーズ 2 工事完了後に仮校舎を撤去し、フェーズ 3 工事にて跡地を整備する

○ 体育施設

- ・ フェーズ 1 着工時からフェーズ 2 完成時まで小体育館が校地内に存在しないため、近隣施設活用を検討

○ その他

- ・ 班室（部室）がフェーズ 1 着工時からフェーズ 2 完成時までの期間で不足、対応の検討が必要

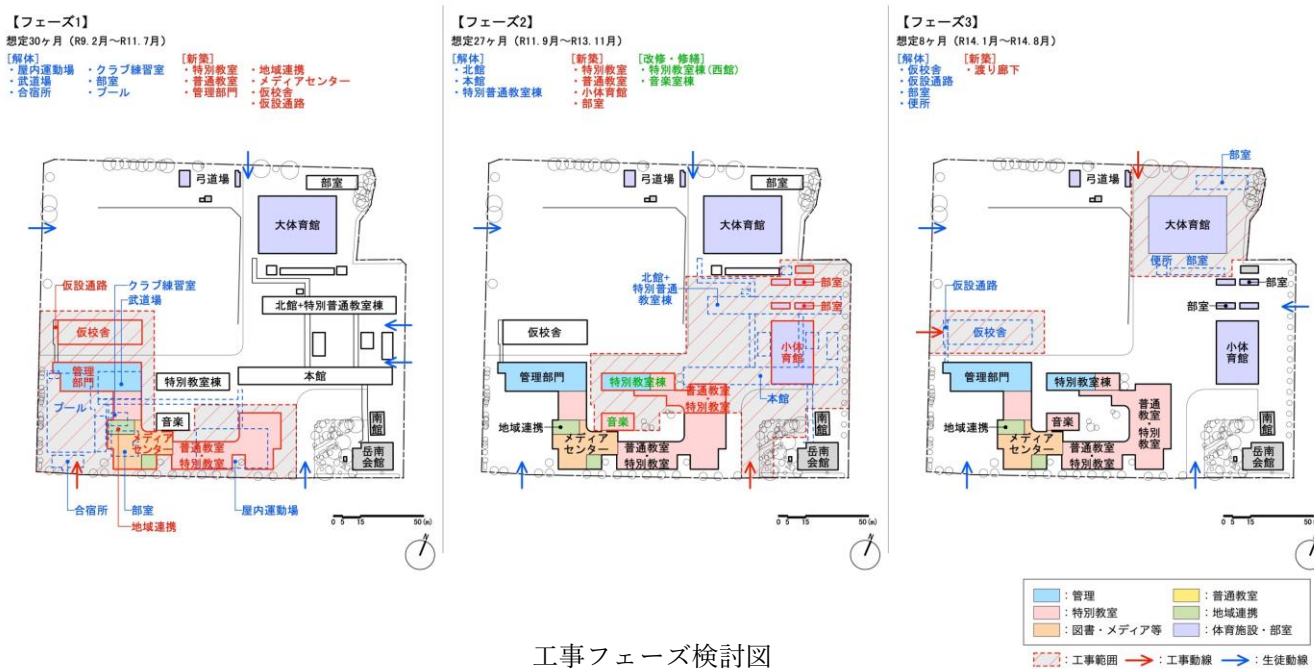
○ 仮校舎の配置検討

- ・ 工事範囲のまとまり、新校舎との行き来を考慮すると、特別教室棟（西館）の北側が望ましい

6 事業スケジュールの検討

○ 全体工程表

- ・ 令和 11 年度中のフェーズ 1 完成から逆算すると、フェーズ 1 解体工事を令和 8 年度末、フェーズ 1 新築工事を令和 9 年度後半から着手する必要がある
- ・ 除却範囲でアスベスト(レベル 1)が検出された場合、埋蔵文化財調査により貴重文化財が発掘された場合は工程が大きく変更になる
- ・ 拡張用地の造成工事について、フェーズ 1 工事ヤードとしての使用が期待されるため、遅滞なく諸手続きを行い、早期に造成、整地を行えるように進める必要がある
- ・ 基本計画段階で敷地測量(拡張用地を含む)、既存棟のアスベスト含有、地盤調査等の情報が不足、設計及び工事スケジュールに影響を及ぼすため、速やかに調査を実施する必要がある
- ・ 令和 10 年度末、令和 11 年度夏季休暇、令和 12 年度末、R13 年年末に引越しを実施する想定
- ・ 定時制は新校開校から 2 年遅れでの新校への移管を検討
- ・ 建築基準法上、消防法上の棟の単位が不明、現行法規に準拠させる改修等が必要になる可能性がある
- ・ 関係機関との事前協議、早い段階での課題の洗い出し、全体工程の精度を高めていく必要がある
- ・ 工事中の駐車場及び駐輪場の確保、学習、生活活動の制限（運動場、小体育館、班室等）、工事ヤードの確保、動線の分離、騒音・振動対策の課題や懸念事項については解決に向けた検討が必要
- ・



工事フェーズ検討図

○佐久新校全体スケジュール（案）

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度
設計工程	基本計画提出	基本計画策定	基本設計	実施設計 建築確認申請 各種適合判定		仮使用申請1 各種検査	仮使用申請2 各種検査	完了検査	
工事工程				フェーズ1 (解体・新築)		フェーズ2 (解体・新築)		フェーズ3 (解体・外構)	
引越			●除却施設内の備品等移動		●教室・管理諸室(新校舎に移転) ●特別教室・管理諸室(仮校舎に移転)		●特別教室・管理諸室(特別教室棟に移転)	●特別教室一部(新校舎に移転)	
学校の体制 (佐久新校・野沢北高校)	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	佐久新校 1年:8CR 野沢北高校 2年:5CR/3年:5CR 計18CR	佐久新校 1年:8CR/2年:8CR 野沢北高校 3年:5CR 計21CR	佐久新校 1年:8CR/2年:8CR/3年:8CR 野沢北高校 4年:5CR 計24CR	佐久新校 1年:8CR/2年:8CR/3年:8CR 野沢北高校 4年:5CR 計24CR
学校の体制 (野沢南高校)	野沢南高校 1年:4CR/2年:5CR/3年:5CR 計14CR	野沢南高校 1年:4CR/2年:4CR/3年:5CR 計13CR	野沢南高校 1年:4CR/2年:4CR/3年:4CR 計12CR	野沢南高校 1年:4CR/2年:4CR/3年:4CR 計12CR	野沢南高校 1年:4CR/2年:4CR/3年:4CR 計12CR	野沢南高校 2年:4CR/3年:4CR 野沢南高校 4年:4CR 計8CR	野沢南高校 3年:4CR 野沢南高校 4年:4CR 計8CR	—	—

全体工程表（令和 7 年 4 月時点）

